

連載コラム



みずき野と  
その周辺の  
植物と昆虫



第37回

マメ科の植物(1)

～ ヤハズエンドウ、ツルマメなど～

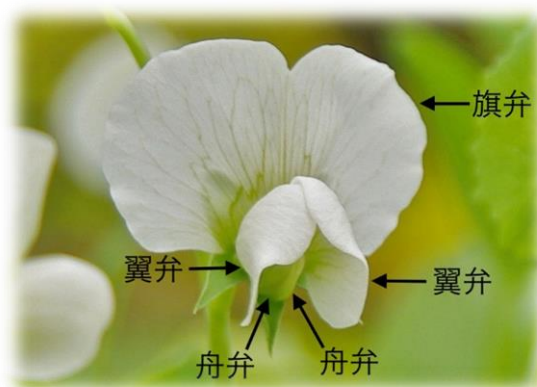


もとよし ふさお  
本吉 総男

2017年10月

マメ科植物の花の多くは小さく、あまり目立たないものが多いのですが、近づいてよく見ると、こんなにきれいな花だったのかと気づくことがあります。花の美しさは色のみならず姿にもよっています。マメ科の花は一般に「蝶花」と呼ばれ、チョウを連想させる美しい姿です。

花弁は5枚あり、エンドウの花を例として図示します。上部には「旗弁」と呼ばれる大きな花弁があります。旗弁の下の両脇に一对の「翼弁」、一番下の一对の「舟弁」は、2枚が合わさって舟のような形をつくりま



マメ科の花弁(例:エンドウの花)

マメ科植物の葉はほとんどが複葉で、単葉を持つものはタヌキマメなど、ごくわずかです。単葉とは、サクラやツバキやキクの葉のような、いわば「普通の葉」です。複葉は1枚の葉が複数の小さな葉に分かれているもので、例えば、サンショウ、ナンテン、ハゼなどの葉です。複葉を構成する小さな葉を小葉といいます。小葉をつけて枝のように見えるのは、枝ではなく、葉の主脈です。

今回はみずき野周辺に見られるマメ科植物を紹介します。実(豆果といひます)については、撮影できた写真のみ載せています。

## 1 ヤハズエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ

ヤハズエンドウやスズメノエンドウという名から、エンドウの仲間と思われがちですが、ヤハズエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサは共にソラマメの仲間(ソラマメ属)です。

この3種は春の半ばに咲き、みずき野周辺にもよく見られます。いずれも道端でよく見かけ、外見がよく似ているため、三姉妹という感じですが、ヤハズエンドウ(矢筈豌豆)の名は、小葉の先端がくぼんでおり、このくぼみを矢筈(矢の末端の弓の弦を受ける部分)に見立てて付けられたものです。ヤハズエンドウは植物学上の正式名称ですが、別名をカラスノエンドウ(烏野豌豆)といい、この名の方が一般に知られているかもしれません。カスマグサは、その

姿からカラスノエンドウとスズメノエンドウとの間の植物(「カ」と「ス」の間)という意味で名付けられました。



ヤハズエンドウ(別名:カラスノエンドウ)  
3月下旬 さくらの杜公園

ヤハズエンドウは、本州、四国、九州、アジア、ヨーロッパに広く分布する越年草で、他の2種よりずっと多く見られます。3月末から咲き始め、6月頃まで咲いています。茎の高さは50～150センチで、3種のうちでは最も大きな植物です。実の写真は手元にはないのですが、エンドウの実に似ています。



スズメノエンドウ 4月下旬 7丁目

スズメノエンドウはヤハズエンドウと同様、本州、四国、九州、アジア、ヨーロッパに広く分布する越年草です。ヤハズエンドウより小型で、茎の高さは30～60センチ。花も実もヤハズエンドウやカスマグサより小型です。

カスマグサもアジア、ヨーロッパに広く分布する越年草です。日本では、本州、四国、九州、沖縄まで分布しています。茎の高さはスズメノエンドウと同様、30～60センチ程度ですが、花や実の大きさは前2種の間です。



カスマグサ 4月下旬 7丁目

これら3種は花が咲いていなくても、小葉の形で識別できます。ヤハズエンドウの小葉は、先端がくぼんでいて、はっきり他の2種と区別がつけます。スズメノエンドウとカスマグサの小葉はよく似ていますが、スズメノエンドウの小葉は先端が平たく、カスマグサの小葉の先端は丸くなっています。



ヤハズエンドウ  
(小葉の先端がくぼんでいる)



スズメノエンドウ  
(小葉の先端が平たい)



カスマグサ  
(小葉の先端が丸い)

3種の小葉の形の比較

## 2 クサフジとツルフジバカマ

クサフジもツルフジバカマもソラマメの仲間です。しかしその姿から、ソラマメの近縁種には見えません。両種とも日当たりのよい草地を好んで生える一年生のつる草で、つるの長さは2～3メートルに達します。花の柄はつるから枝分かれし、たくさんの花を房状に咲かせます。

クサフジは北海道から沖縄までの日本列島を含むアジア、ヨーロッパ、北アメリカ、北アフリカまで広範囲に分布しており、ツルフジバカマは北海道から沖縄までと東アジアに分布しています。

両種はよく似ていますが、識別は容易です。クサフジは5～7月に、ツルフジバカマは8～10月に花を咲かせるので、まず間違えることはありません。1枚の葉につく小葉の数は、クサフジでは8～13対、ツルフジバカマでは5～8対です。また、花や小葉はクサフジの方がツルフジバカマより小さく、外観でも区別がつけます。



クサフジ 5月中旬 本町地区



ツルフジバカマ 8月下旬 本町地区

クサフジ(草藤)は葉と花がフジ(藤)に似ていることから付けられた名称ですが、ツルフジバカマ(蔓藤袴)は、秋の七草のフジバカマ(藤袴)とは似ても似つかぬ姿で、なぜそのような名が付いたのか不明です。

### 3 ヤブマメ

ヤブマメは、つる性の一年草です。北海道から九州までの日本列島と東アジアに分布しています。ヤブマメ(藪豆)はその名が示すように、林のへりなどの半日陰の藪に絡みついて生長し、つるは2メートル以上に伸び、9～10月頃、白地に旗弁の先が紫色の花を咲かせます。

ヤブマメの不思議なところは、地下にも花がつくということです。地下の花はつぼみが開かないので、閉鎖花と呼びます。閉鎖花も実になり、中にひとつ種子をつくるそうです。残念ながら、地下の閉鎖花は観察していません。閉鎖花は地上にもつくのですが、これもまだ見たことがありません。



ヤブマメの花 9月下旬 貝塚地区



ヤブマメの葉と実 9月下旬 貝塚地区

### 4 トキリマメ

トキリマメは本州の関東以西、四国、九州に分布する多年生のつる草で、6～9月に花を咲かせます。

トキリマメにたいへんよく似た種にタンキリマメがあります。両種の花や実はそっくりです。しかし葉の先端の小葉を観察すれば、両種を識別できます。小葉の先が突がっているのはトキリ

マメ、丸いのはタンキリマメです。みずき野周辺では、トキリマメはたまに見かけますが、タンキリマメは見たことがありません。両種とも関東以西に分布する植物ですが、タンキリマメの方が暖地を好むので、茨城県は適地ではないのかもしれませんが。

タンキリマメ(痰切豆)は痰<sup>たん</sup>を止める効果があると信じられて付けられた名称ですが、トキリマメ(吐切豆)の語源はわかりません。



トキリマメ 7月中旬 文化財公園



トキリマメの花 7月中旬 文化財公園



トキリマメの豆 1月上旬 3丁目東隣接地

## 5 ヤブツルアズキ

ヤブツルアズキは本州、四国、九州および東アジアに分布する一年生のつる草で、日当たりのよい場所を好みます。花は8～9月に咲きます。みずき野周辺には少なく、私は小貝排水路のフェンスに絡まっていたものを一度見ただけです。

ヤブツルアズキに似た植物にノアズキがあります。両種の花は似ていますが、形が多少異なっています。最も識別しやすいのは実の形で、ヤブツルアズキの実は円筒形ですが、ノアズキの実は扁平です。ノアズキはみずき野周辺では見たことがありませんが、『もりやの自然誌』(2000年 守谷町教育委員会発行)の中の植物のリストには入っているので、見る機会があるかもしれません。

ヤブツルアズキはアズキの仲間(アズキ属)で、アズキの祖先種と推定されています。これに対し、ノアズキはノアズキ属の植物で、アズキとは多少縁遠い植物です。



ヤブツルアズキの花と実 9月中旬 本町地区

## 6 ツルマメ

ツルマメは本州、四国、九州および東アジアに分布する一年生のつる草で、周辺の植物にしっかり絡みついて生長します。ごく普通の植物で、みずき野周辺にもたくさん見られます。花は8～9月頃咲きます。ツルマメの実の形は枝豆とそっくりです。ただし大きさは枝豆の4分の1ほどしかありません。残念ながら実の写真を撮っていませんでした。代わりに、以前に描いたスケッチを載せておきます。



ツルマメの花 9月上旬 さくらの杜公園東隣接地



ツルマメの実(スケッチ)  
10月上旬 上高井地区から採取

ツルマメはダイズの仲間(ダイズ属)で、ダイズはツルマメを改良して作られた作物です。ツルマメからダイズへの改良は古代の中国で行われたとされていますが、詳しいことはわかりません。日本でもダイズは古くから利用されていたようです。縄文時代の遺跡からダイズ

の痕跡が発見されたことから、その頃から栽培が始まったとされています。古事記や日本書紀にもダイズの名が記せられています。

ダイズは私たちの食生活に欠かせぬ作物で、豆は良質のタンパク質、脂質、ミネラル、ビタミン、食物繊維を豊富に含む極めて優れた食品です。そのまま枝豆や煮豆として食べるほか、味噌、醤油、豆腐、納豆、湯葉、豆乳、油揚げ、がんもどきなど、食品としての利用法は多様です。東アジアの各国もダイズを利用したそれぞれの食文化をもっています。もともと東アジアのみで利用されてきた大豆ですが、現在世界で最も多くダイズを栽培している国はアメリカです。しかし、ダイズそのものを食品として利用することは少なく、多くはダイズ油の生産に利用されているようです。

ダイズは、私たちにとって最も重要な作物のひとつですが、その祖先種であるツルマメが存在しなければ、ダイズも当然存在しません。ツルマメはなんの取り柄もなく、見向きもされない雑草ですが、私自身は、ダイズの祖先であるあの小さな豆に敬意を表しています。